

## 総務市民文教委員会行政視察報告書

市内視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成31年4月22日

光市議会議長 西村 憲治 様

### 総務市民文教委員会

委員長	笹井 琢
副委員長	岸本 隆雄
委員	木村 信秀
委員	田邊 学
委員	中本 和行
委員	仲山 哲男
委員	西村 憲治（議長）
委員	林 節子
委員	森重 明美
随 行	松尾 真

### 記

- 1 視察年月日 平成31年3月18日（月）
- 2 視察場所 山口県立光丘高等学校、山口県立光高等学校
- 3 視察調査結果 別紙のとおり

# 総務市民文教委員会行政視察調査結果

## 再編される市内公立高校について

### ■光丘高等学校

日 時	平成31年3月18日(月) 13:30～14:30
場 所	光市光丘1番1号
応 対 者	大塚泰二校長、倉富浩教頭

#### 1 施設の概要

- (1) 校地・校舎 校地面積 72,562 m<sup>2</sup> 運動場 32,403 m<sup>2</sup> 校舎延床面積 12,782 m<sup>2</sup>
- (2) 沿革 昭和58年 開校  
昭和60年 管理棟・体育館が竣工  
平成13年 総合学科設置  
平成15年 普通科を閉科 すべて総合学科とする
- (3) 教員数 51名
- (4) 生徒数 343名(市内中学卒:85名 市外中学卒:258名)
- (5) 施設の特徴等

昭和57年建築のため施設はまだコンディションが良く、ゆったりとした造りとなっている。敷地内に十分な駐車場のスペースあり。学校全体の掃除が行き届いている。管理等の廊下の幅は2.8mで、広々としている。防火シャッターを装備。洋式トイレは3ヶ所程度で、ほぼ和式トイレ。被服室のミシンなど装備品が充実し、書道ルームには各生徒用に専用机あり。屋内スポーツジム(トレーニングルーム)スペースも広く、充実している。音楽室には、防音専用レッスンルームを6部屋設置。

PCは全部で120台(ウィンドウズ8.1～10)あり、ワード・エクセルの検定、文書デザイン、英語検定、卒業研究などに活用されている。コンピュータ教室のPCには、中間モニターなる黒板機能あり。PCについて、現光高校への移転に係る電気容量不足が懸念される。

過去には最大24クラスあったが、現在は9クラス。部活は、弓道と水泳が強い。平成31年度入学者は、定員120名に対し現時点で119名が合格している。



※学校要覧より



## 2 主な質疑と回答

Q：空調機は、いつ設置したのか？

→平成 26 年度に P T A が設置し、平成 27 年度から運用開始。入学時に 1 万円と毎月の電気料金 (500~1,000 円) をいただいているが、平成 31 年度から、電気料金は県による支払い。

Q：屋内スポーツジムの活用状況は？

→授業と部活で使っている。

Q：美術や音楽、コンピュータ等、多様な授業の実施において、常勤の先生で対応可能か？

→基本的には、常勤により賅えている。

Q：現状の施設・設備で困ったことはあるか？

→家庭科室の家電 (オーブン) が古く、使用不可の状態であることぐらい。

Q：生徒の市外市内の割合等は？

→周南市、下松市、光市の順に生徒が多い。

Q：統合後の部活はどうなるか？

→現在、光高校と協議中。

Q：統合・移転後の電気容量に不安はないか？

→山口県がきちんと対応してくれると考えている。



# 総務市民文教委員会行政視察調査結果

## 再編される市内公立高校について

### ■光高等学校

日 時	平成 31 年 3 月 18 日 (月) 15:00 ~ 16:00
場 所	光市光井六丁目 10 番 1 号
応 対 者	岡本勉教頭

#### 1 施設の概要

##### (1) 校地・校舎

校地面積：78,224 m<sup>2</sup>、運動場：42,000 m<sup>2</sup>、校舎延面積：11,193 m<sup>2</sup>

##### (2) 沿革

昭和 24 年 県立光高等学校と県立光女子高等学校を統合し、男女共学校となる

昭和 43 年 現地に移転

平成 5 年・6 年 野球部甲子園連続出場

平成 17 年 普通教室空調使用開始

平成 24 年 普通教室棟耐震改修工事

平成 28 年 創立 80 周年記念式典挙行

##### (3) 教員数 全日制：58 名、定時制：8 名

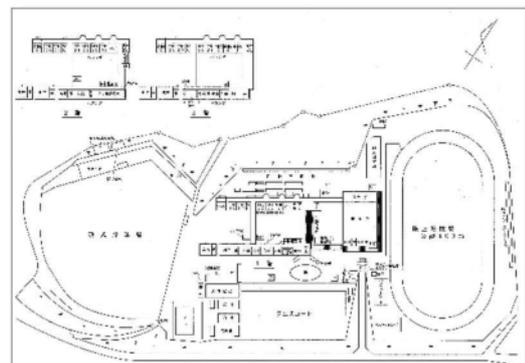
##### (4) 生徒数 全日制：405 名、定時制：22 名

(全日制の中学校別 市内就学卒：296 名 市外中学卒：109 名)

##### (5) 施設の特徴等

400mトラックの陸上競技場やスタンド付きの野球場、格技場や屋内弓道場など体育施設は整備されている。校舎は昭和 43 年建築であり、耐震化補強工事は済んでいるものの、壁や柱に雨漏りやクラックが見られる。教室と廊下の窓は木枠、1階教室の床は木製である。PCが設置されている教室は2部屋、視聴覚室は1クラス分の広さしかない。

過去には24クラスあったが、現在は12クラス。平成31年度入学者は定員160名に対し、現時点で136名が合格している。



※学校要覧より

## 2 主な質疑と回答

Q：視聴覚室をパソコン教室にするには狭量に思えるが、統合後の活用は大丈夫か？  
→100近いパソコンの設置は、今の部屋では課題があり困難である。



## 行政視察所感

### 笹井 琢

#### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校）

I Tが整備された3つの部屋、練習室付きの音楽室、中央部にあるコミュニティホールなど、建設された昭和58年当時の時勢を反映した豊富な作りとなっている。総合学科として健康科学・ビジネス・芸術などの系列を選択できるほか、演劇部をはじめとした部活動にも定評がある。2つの学校の統合にあたっては、機能やノウハウが引き継げるように注視していきたい。

#### ●再編される市内公立高校について（光高等学校）

自分自身、光高校へ昭和57年に入学し、昭和60年に卒業したが、耐震施設以外全く変わっていないことに驚愕した。窓枠は木製、1階の教室床は板張りで、コミュニティホール的な部屋もなく、壁や柱にはヒビが見られる。進学用補習コーナーは廊下の一角でよいのだろうか。統合される新しい高校は本校舎を使用することだが、上記事項は改善されるべきである。野球・バスケット・陸上などの部活動は、昔と変わらぬ熱血スピリットを感じた。

### 岸本 隆雄

#### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校、光高等学校）

私が光高校に入学した時（1969年・昭和44年）に新築完成しましたので、今年で丁度50周年。50年という歳月は、こんなに建物を老朽化させるものかと驚きました。それ以前の校舎は、現武田薬品光工場の敷地にありました。

一方、光丘高校は、天井も床もまだまだ綺麗で、何でこちらを廃校にするのか理解できません。光丘高校の生徒の多くは、周南市・下松市からの電車通学です。利便性を考えても、光丘高校の施設を利用する方が特策だと思いました。

### 木村 信秀

#### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校）

昭和後期に建設された施設であり、バブル景気時に建設されたことが伺えた。他の公共施設と比較しても新しく感じる校舎で、設備は古くはなってきたものの充実したものであり、今後とも利用価値が高いものと感じた。

#### ●再編される市内公立高校について（光高等学校）

昭和中期の建物であり、老朽化とともに狭隘化を感じた。ここに高校を集約するのであれば、建替えも視野に入れて検討されるべきではないだろうか。少子化のおり市内唯一の公立高校となることから、他市からの通学を考えれば、利便性を向上しなければ選ばれる高校とはなり難いと感じた。

## 田邊 学

### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校）

光丘高校については、総合学科であり、「21世紀の社会に積極的に活躍できる人」を育てるためのプログラムという事ですが、今、教育の現場で謳われている「グローバル化に対応する人材育成」の為には、本市に光丘高校は必要ではないかと思いました。1年次に「産業社会と人間」、2年次に「キャリアアップ学習（総合的な学習の時間）」、3年次に「卒業研究（総合的な学習の時間）」、これらが、グローバル化に対応する能力を習得できるのではないかと思いました。生徒が自分自身で道筋を探して自分の夢を叶えるための公立高校であり、再編されることについては疑問点が残りました。

### ●再編される市内公立高校について（光高等学校）

光高校については、平成15年度から2学期制、45分7限授業を採用、2年生から文系、理系にカリキュラムが分かれ、少人数教育で、きめ細かい指導をしている。平成17年度から、教室棟にエアコンを設置し、夏季の授業・課外を快適に実施しています。しかし、建物は光丘高校に比較して大変古いので、今後の方向性について課題は多いのではないかと考えられ、交通の利便性においても、簡単に解決できるものでもないのではないかと思います。

## 中本 和行

### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校、光高等学校）

小中高と卒業者が減少して、高校が維持できなくなる。特色ある学校づくりを目指して望ましい学校規模をめざした再編統合し、望ましい学校規模とする。これが県高校再編計画です。光市に2校ある高校は再編して現光高校の地に新しい高校を設置し、普通科と総合学科を置く、県内では初めての高校になるとのことです。

光丘高校は開校以来、教室を増やしながら産業用コンピュータ、マルチメディア情報教室・総合学科を設置して現在に至るとのことです。校舎も新しく、駅に近く他市からの通学に適した高校でしたが、なぜ、光高校に設置されたのか疑問を感じます。

光高校は、本市の中心部に立地することで市内全域から通学でき、また、野球場や公認陸上競技場と特色はありますが、光丘高校のコンピュータ他情報機器等の受け入れが可能であるか、また、校舎は半世紀近い学舎としてあらゆる施設設備悪く、トイレや廊下、外壁のコンクリート剥離等、余りにも教育環境が悪く、問題が多い施設であると感じました。生徒が気持ちよく勉強できるよう、新学校に相応しい新たな校舎が望ましいと考えます。

尚、光丘高校の後の施設利用に期待します。

## 仲山 哲男

### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校）

校舎は防火区画も対応できており、目立った亀裂や雨漏りの後も見られず、概ね良好に

保たれている。教室構成は多彩なカリキュラムに応じ、普通教室以外にも広めで、様々な設備面の対応がある教室がある。設備面でも、IT教育環境（コンピュータ室、マルチメディア室、文書デザイン室、LL教室）、スポーツジム、天体望遠鏡、音楽室には付属防音レッスン室など、充実している。トイレの洋式化は一部にとどまっているものの、当該高校を廃止にするには惜しい。

#### ●再編される市内公立高校について（光高等学校）

耐震補強はなされているものの、校舎は防火区画も対応できてない上、老朽化がかなり進んでおり、随所に亀裂や雨漏りの跡、鉄筋の露出も見られる状況。普通科高校として整備されているため、一部特別教室以外は普通教室のみである。光丘高校で展開されていた総合学科の内容をこの校舎に持ち込むことについては、想定しにくい。教室のエアコン設置やトイレの洋式化が進められていること、また、グラウンドとトラックが公式認定されているとのこと、それら以外に有利な面は少なく、通学面での立地も含め、建て替えを前提としない限り、こちらに統合する選択は理解しにくい。

### 西村 憲治

#### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校）

定員120名のところ、視察時で119名の合格あり。最大24クラスであったが、現在9クラスになっている。掃除が行き届いており、施設はまだまだコンディションが良く、廊下の幅は、2.8mで、ゆったりとした造りとなっている。被服室のミシン等の装備品が充実しており、書道ルームには専用の机が設置され、また、スポーツジム（トレーニングルーム）の器具も充実している。音楽室には、防音専用レッスンルームが6部屋あった。洋式トイレは3か所程度で、校内のほとんど和式トイレ。防火シャッターが装備されている。敷地内には、十分な駐車場スペースあり。

PCが全部で120台（ウィンドウズ8.1～10）あり、ワード・エクセルの検定や文書デザイン、英語検定、卒業研究などに活用されているが、現光高校への移転後の電気容量不足が懸念される（現場先生の声）。PCには、中間モニターなる黒板機能あり。

#### ●再編される市内公立高校について（光高等学校）

S43年新築のため、施設は老朽化し、学校全体の掃除が行き届いておらず、スペースは全てにおいて狭い（廊下の幅は2.2m）。現在は12クラスになっており、H31の定員割れは24名とのこと。視察時は2次募集中。被服室のミシンなど装備品が古い。生物室・音楽室へは、外の廊下を使用。3か所程度（2F渡り廊下含む）が洋式トイレに改修され、1Fトイレはドアも修理されていた。防火シャッターの装備なし。敷地内には、十分な駐車場スペースがない。

PCは全部で40台（ウィンドウズ8.1）あり、ワード・エクセルの検定などに活用されていたが、移転後の電気容量不足が懸念される。PCには中間モニターなる黒板機能なし。冷暖房は、冷房はあるが、暖房は灯油ストーブで対応。

<感想>統合後の高校は、全てにおいて新しい光丘高校の方が良いのではないかという印象を受けた。

## 林 節子

### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校）

光丘高等学校の現状を視察した。玄関や各教室など、とても明るく学校全体の清掃が行き届いており、清潔な印象を受けた。視聴覚室は120人収容でき、階段式になっていて大学の講義室のようであった。コンピュータ教室にはパソコンが40台あり、教員のパソコンと共有しており、転送可能でとなっている。音楽室には、グランドピアノをはじめ、数多くの楽器が揃えられていた。健康保育系列（スポーツ系）ではトレーニングルームがあり、トレーニング器具が充実していた。トレーニング器具は部活の生徒も使用可能である。

### ●再編される市内公立高校について（光高等学校）

光高等学校の現状を視察した。最初に運動場に案内され、42,000m<sup>3</sup>の広い運動場だった。野球場として練習に打ち込めるよう整備されており、他の部活も使用できるだけの広さが確保されていた。次に体育館を視察。傷みがひどく、特に床がひわっていた。次に教室を視察。定時制生徒は通常教室ではなく、被服教室、科学教室、生物教室を使用していた。今後、定時制課程の再編統合は検討するとのこと。統合時、光丘高等学校の設備（パソコン等）が利用できるのか、また教室の確保出来るのかが不安である。教室の老朽化に加え、清掃が行き届いていない様子であった。

<感想>光高等学校の改修等にかかる負担を考えると、また、交通の便や設備の充実面を見ても、光丘高校に高校を新設した方が良いのではないかと感じた。

## 森重 明美

### ●再編される市内公立高校について（光丘高等学校）

光丘高等学校は昭和55年に県の周南東部地区の県立高校新設に伴い当地に設置され、平成13年度までは普通高校として生徒を輩出していました。その後、平成13年度以降は普通科を改変し、総合学科設置の教育機関として、進路に応じて4系列・7系科目の選択モデルを学べる教育提供をしています。施設や部活動環境も近代的に整備されており、多様性に富んだ新しい学びスタイルを感じました。光駅に近く市外通学も多い実態は、少子化への一つの大切な視点とも考えられます。

### ●再編される市内公立高校について（光高等学校）

卒業時はほとんどが大学進学という市内屈指の進学校として、長い歴史を持つ光高校ですが、再編後は、新たな高校を現光高校へ設置するという路線が決まっています。市内中学校の在籍数が多く、光市における文化・教育ゾーンという位置的環境にもありますが、現校舎は昭和43年度竣工で、耐震対策はされているものの老朽化が激しく、かなりの改修が求められる実態を感じました。トイレや手洗い場等の衛生面や自習スペースの環境面などは、学校生活での考慮が必要です。